

## 「国語力」ってどんなイミ？

佐藤学習研究所 佐藤 久典

ところで、どのようにしたら日本語の基礎力、それも書きコトバとしての日本語の力を身につけることができるのでしょうか。

直接その話題(わだい)に入る前に、ちょっと話しコトバについて触(ふ)れておくことにしましょう。話しコトバとは、たとえば皆さんが、チョコレートを食べたいときに「お母さん、チョコレートちょうだい」のように、会話(かいわ)の中で使うコトバのことをいいます。どちらかといえば、話しコトバは、ふだんの生活の中で、なんとなく身につけてきたコトバ、といえるでしょう。なお、話しコトバは、別名(べつめい)口語(こうご)ともいいます。

かりに、みなさんが11歳(さい)ならば、11年かかって、一応(いちおう)の話しコトバを使うことができるようになっているわけです。考えてみれば、11年も日本語の練習をしているのです。案外(あんがい)自分は努力家(どりょくか)だなあ、と思いませんか。

このことからわかるように、話しコトバであっても、コトバの学習は、そのコトバがじゅうぶんに使いこなせるようになるまでには、長い時間を要するのです。なぜなら、ひとつひとつのコトバ(単語; たんご)とその意味、それに単語の使い方を知って、少しずつ単語・意味・使い方の三点を蓄(たくわ)えていかなければならないからです。

以上のように、ふだんの生活の中で、なんとなく身につけてきたコトバが話しコトバです。

それにくらべて書きコトバは、最初に「あ・い・う・え・お・か・き・く・け・こ…」の50音の読み方と書き方を習わなければなりませんし、また、その全部を暗記しなければ、書いてあることも、自分がいいたいことも表現することができません。さらに、書きコトバには「漢字」という、みなさんにとっては“頭痛(ずつう)の種”があり、これもひとつひとつ意味を理解しながら覚えていかなければ、自由に使うことができません。

こんなことを書くと、「書きコトバってやっかいだなあ。やりたくないよ」と思うかもしれません。しかし、めんどろなぶん、書きコトバには、下にあるような話しコトバにはない長所があるのです。ほんの一例をあげれば、書きコトバには、

文字を使って、いつまでも主張したい内容を残せる、という良さがあります。声(話しコトバ)だと、大切な内容がどんどん空中に消えていってしまいます。

書きコトバなら、手紙やインターネットのメールなどを通じて、多くの人と情報の交換(こうかん)ができます。話しコトバだと、目の前にいたり、電話で話している人とは情報のやりとりができません。

何度も読み返すことができ、繰り返し内容をチェックすることができます。

五つや六つのことがらを、目で確認しながら、同時に考えることができます。

AはBと同じです。BはCと同じです。だからAとCは同じになります、といった数学的な考え方ができるようになります。この結果(けっか)、「作文」や話しコトバが、ずっとうまくなります。

いろんな種類の本が読め、これまで知らなかったいろいろな知識を、簡単に手に入れることができます。

日記をつければ、自分の心と話をすることができ、客観的(きゃっかんてき)に自分の気持ちをつかむことができるようになります。

あれもこれも一度に全部やろうとし、結局は全体をゴチャゴチャにしてしまう幼稚(ようち)な考え方から、ものごとを大切な順(じゅん)に順番をつけて分け、「～だから…のようになるんだな」といった、原因と結果をしっかりと考える大人の考え方ができるようになります。

といった利点（りてん）があります。ですから、最初は少しばかり“めんどう”に感じて、じゅうぶんに練習し、マスターする価値はあるのです。

さて、書きコトバを自分のものにする方法ですが、下の「書きコトバを得意にする a b c」が基本です。

### 書きコトバを得意にする a b c

<紙面の都合上これは簡易版です。詳しい内容は佐藤学習研究所 m3569615@k4.dion.ne.jp までお問い合わせください>。

- a . 指でなぞりながら声を出して音読し、文中の読めない漢字等を○で囲みましょう。
- b . 意味がわからない漢字やコトバは「小学生用の国語辞典」を引き、意味を調べましょう。
- c . 意味を調べた漢字やコトバは、自由に読み書きができるまで、繰り返し練習をしましょう。

#### <参考>

国語の教科書だけが書きコトバをマスターする教材ではありません。算数でも理科でも社会でも、きよくたん（極端）なことをいってしまえば、『マンガ日本史』や小説、ファミコン解説本やざっし（雑誌）でさえも、文字になっているもの全体が、書きコトバを練習する材料なのです。

生徒さんによっては、女の子対象のマンガを読むうち、敬語ができるようになった人もいます。

#### <辞書がどうしても引けない人へ>

読めない漢字は、お父さん・お母さん、または学校や塾・家庭教師の先生に尋（たず）ねましょう。

次回は、実際に教科書の本文を読み、意味がわからないコトバや読めない漢字などへ赤い○をつけてみましょう。